

海津市まちづくり委員会「第5回グリーン・ツーリズム検討分科会」会議録

開催年月日 平成20年5月23日(金)

開催場所 海津庁舎分館「第3会議室」

分科会委員定数 11名

開 会 午後2時

閉 会 午後4時

出席者 ○分科会委員

東海学院大学学長	杉山道雄
公募市民	伊藤啓二郎
農業委員会代表	橋本輝男
営農協議会代表	芳賀麒一郎
海津市商工会	鷲野勝憲
農業フォーラム21代表	山内徳男
木曾三川ブルーベリーの里	伊藤辰博
海津市4Hクラブ	近藤栄希
海津市農林振興課係長	菱田登(代理出席)
海津市商工観光課係長	大倉光好
海津市生涯学習課課長補佐	安達健二(代理出席)

○事務局

企画政策課長	木村元康
企画政策課係長	後藤政樹
海津市企画政策課主任	毛利卓司

欠席者

岐阜県農業振興課 課長補佐	川瀬昭
農事改良組合連合会代表	西脇幸雄
農業セミナー代表	近藤修治

会議次第 1. 開会

2. 協議

(1) 今後のスケジュールについて

(2) グループ討議

テーマ1 : 海津市内のGT資源について

テーマ2 : 市内を回流できるルートについて

(3) 視察研修について

3. 閉会

会議録（要約）

事務局	<p>定刻になりましたので、ただいまから海津市まちづくり委員会、第5回グリーン・ツーリズム検討分科会を開催させていただきます。はじめに、企画政策課長の木村よりご挨拶申し上げます。</p> <p>〈課長あいさつ〉</p> <p>続きまして、橋本会長様よりご挨拶をお願いいたします。</p> <p>〈会長あいさつ〉</p> <p>ありがとうございました。 それでは進めさせていただきます。 次第1番目でございますが、今後のスケジュールについてご説明させていただきます。</p> <p>（事務局説明）</p> <p>続きましてグループ討議に入りたいと思います。</p> <p>テーマ</p> <ol style="list-style-type: none">1. 海津市のGT（グリーン・ツーリズム）資源について2. 市内を回流できるルートについて <p>まず、1のテーマについてグループごとで意見交換をしていただいて発表していただきたいと思います。</p> <p>（グループ討議）</p>
1 班発表	<p>農業体験メニューのほかに、道の駅、今尾の左義長、千代保稲荷のつごも、鬼バス、河川敷での放牧（風景）、ハエ寿司（モロコ寿司）、ナマズ、羽沢のマンボ、滝（奥条の滝）などがあげられました。</p> <p>また、アスパラガスに力を入れている団体があるとのことで、PRもかねてグリーン・ツーリズムの素材にならないか、といった話がありました。</p>
2 班発表	<p>海津市にはたくさんの歴史や施設がありますが、見逃してしまっています。これをいかに掘り下げて資源にしていくかが大事だと思います。</p> <p>農業と歴史・観光と組み合わせた、例えば半日コースとか4時間コースで組むといいかなと思います。農業というのは、種まきから収穫まで、時間がかかります。1から10まで体験していただくのは不可能です。例えば秋の収穫祭の時に少し体験をして、その収穫したものを食べていただいて、そして歴史などの観光をつけるような形</p>

	<p>にしてはどうかと思います。</p> <p>また、海津市は特産品がありません。トマトとかキュウリとか、甘長ピーマンとか色々ありますが、加工品がありません。農業的には全国でもずば抜けたものがとれる地域かと思いますが、加工品が全くないので、そういった開発も必要なのではないかと思います。</p> <p>海津市の文化・歴史をもう一度見直す必要があると思います。そしてそれを組み合わせたいと思います。明治10年にミカンの木200本を和歌山より購入して南濃町のミカン栽培が始まった、こういったことでも一つの語りべというか、こういったことが歴史の掘り起こしになっていくのではないか、そのあたりと組み合わせたいと思います。</p>
事務局	<p>続きまして「市内を回流できるルートについて」をテーマにご協議をしていただきたいと思います。先に杉山先生からアドバイスをいただいて、それから協議に入りたいと思います。</p>
杉山教授	<p>私は前にも申しましたが、グリーン・ツーリズムというのは、販売型、参加型、滞在型ということで、今、販売型の段階では海津市は成功していると思っています。千代保稲荷、道の駅、これらは県内でみても一番成功していると思っています。</p> <p>市内の回流ルートは四季折々作っていただきたい。また、日本では（日本のグリーン・ツーリズムでは）一日体験コースが主流です。</p> <p>今の全体的な日本のテーマは、健康長寿です。ヘルシーフードです。それを求めてくるわけですから、トマトのフレッシュさイチゴのフレッシュさ、これは海津市の最大の資源ですので、これを利用して、体験して、例えばトマイチジャムとか、柿とミカンとか、そういう加工品を作って帰りに瓶に詰めて帰れるとか。その間に、春だったらチューリップとか、夏だったらレガッタ、ボートだとか、秋だったら行基寺の月見とか、菱の実が食べられるとか、ここしか味わえないようなコースと食べ物を組み合わせたいものを具体的に描いていただいて、海津市の利点を生かして活用していただきたい。</p> <p>また市内の（関係する）皆さんが簡単に協力できて、自分の家でもできるし、もっとまちの人にも進めたいというようなのをやられるといいかと思います。</p> <p>都市の人は何を求めているか。もう一つは、簡単にできる加工の講習会があると、みんなも学べるし、お土産をもって帰る。そういうことが、面白いのではないかと思います。</p> <p>また、先ほど言われたように加工品がないというのは事実なので、これからの課題になっていくと思います。</p> <p>見るだけでなく体験できる、何かを食べられる、そういうものがあるといいかと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。四季に絡めたお話だとか具体的な施設などの紹介がございました。そのあたりも含めてグループごとで意見交換をしていただいて発表していた</p>

<p>2 班発表</p>	<p>だきたいと思います。</p> <p>(グループ討議)</p> <p>資料などに主立ったものがありますが、従来あるものとプラスアルファでグルメツアーを入れたらどうかという話が出ました。最近、お千代保さんでカモ料理の話が出てきます。海津市には猟友会の方がみえます。私はカモを毎年いただくのですが何年も冷凍庫に入ったままでした。それが2年前からなくなりました。猟友会の方からカモのおいしい食べ方を教えていただいて食べるようになったんですけども、料理屋さんのカモ料理も一つですし、またそういった料理屋さんがあえて、そういった猟友会の方がされるような食べ方をするのも一つかと思えます。そういった季節限定の料理、この地域のグルメツアーを考えてはどうかと思えます。</p> <p>日本人はなぜ何年も生きてこられたのか、実はお漬け物のおかげだよという話をしました。ところが日本全国で売っている漬け物はモドキでございます。本物の漬け物というのは、乳酸菌です。発酵しますので、密閉をいたしまして流通に乗らないわけです。それが漬け物を買っても乳酸菌を体にとれないというのが現実でございます。戦後、ブルガリアのヨーグルトとかいろいろなものが入ってきて乳酸菌、乳酸菌という言葉がいいはじめたのですが、それまで日本人は漬け物を主として乳酸菌をとってきました。海津市には豊富な野菜がありますから、そういったものと食育とかを絡めた、ダイエットをテーマにしたものとか、そういったものを組み合わせてもいいのかなと思えました。</p>
<p>1 班発表</p>	<p>市内のグリーン・ツーリズムの素材とか観光資源、文化財などは、市のパンフレットなどに網羅されている状況です。またその中で、観光パンフなどを見ても、モデルコースとして回遊コースができています。ただ、全然海津市を知らない人が、これらのモデルコースを見てどこに行ったらいいのかわからないのではないかと、という話が出ました。そこで、例えば1つの施設などで滞在できる時間を出し、2時間滞在できる、4時間滞在できる、食事ができる、などのカテゴリをつくり、それをつなぐ。カテゴリの中で自分の好きな場所などを選び、カテゴリ同士がつながる、そういう方法がよいのではないかと話が出ました。また、うまく巡回できるように例えばスタンプラリーなどをやって全部集めると海津の何かもらえる、こういう事をやれば生きてくるのかなと思えました。</p> <p>また、コースを考える上で何の体験ができるのか、ということを考えました。こちらの班の伊藤さんはブルーベリー農園をやってみえますが、ご自身がパンを食べるときにジャムがない時、自分の欲しいだけブルーベリーを採ってきて、砂糖を入れてレンジでチンするとジャムができて、それでパンを食べるということをお話していただきました。伊藤さんは普通にやってみえますが、私たちは初めて聞きましたので、そういう食べ方ができるのだということで話が盛り上がったのですが、そういうような事を体験メニューとしてやる、もしくは農園に来た人にこういう食べ方もあるよと紹介することもグリーン・ツーリズムの素材としていいのではないかと思います。</p>

事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>では杉山先生からご講評をいただきたいと思います。</p>
杉山教授	<p>グリーン・ツーリズムは、基本的には今やってみえる方の収益が増して、経営にプラスになる、またそれが連携するとプラスになるように考えなければなりません。</p> <p>例えばブルーベリーは、目に非常に良いと言うことで、海津に行ったらブルーベリーのジャムが作れる、そういう事が体験できるということをルート化したり行事にすると素晴らしいと思います。</p> <p>確かにパンフレットにすべて出ています。出ていますが、それをどう発展させるか、どう進めるかということが、このグリーン・ツーリズム分科会の役割だろうと思います。</p> <p>また、来る人の年齢層別によって行きたい先も変わってきます。子供はハリヨとかバードウォッチングとかがいいのかと。来る人のニーズによって、メニューはたくさんあるほどいい。ニーズの調査を試みるのも良いでしょう。</p> <p>ここにしかないオンリーワンを連携して、四季折々、市民に、海津市民以外にも訴えられるといいのかと思います。</p> <p>PRではメールマガジンを見て、海津に行きたいと思うような記事、また四季折々の提案みたいなものがあると良いかと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>協議事項の3で「視察研修について」とありますが、杉山先生から地元で何か体験を試みることもいいのではないかとアドバイスをいただきました。先ほどの伊藤さんのブルーベリージャムの話もありましたが、そういう事を皆さんでやってみるのも1つではないかと思います。</p> <p>そこで視察研修については、地元で体験をやってみることも視野に入れ、もう一度吟味させていただきたいと思いますので、研修先については事務局にお任せいただきたいと思います。</p> <p>また、回流ルートの話で、例えば何時間コースというのを設定するのですが、お代保さんならどれぐらい時間（滞在時間）がかかるのか、といった検証が必要になるのかと思います。ただ施設はたくさんありますので、全部は無理かもしれませんが、グループごとに分かれて現地に出て検証してみようかという話も出てくるかもしれません。したがって愛知まで行って研修しましょうといった話がなくなるかもしれませんのでよろしくお願いします。</p> <p>以上をもちまして第4回目の分科会を終了いたしたいと思います。</p>